



【令和4年度】

滋賀県健康寿命延伸のための
データ活用事業報告書（概要版）

滋賀県健康寿命延伸のためのデータ活用事業プロジェクト会議

滋賀県衛生科学センター



滋賀県健康づくりキャラクター

しがのハグ&クミ

本資料は、令和4年度 滋賀県健康寿命延伸のためのデータ活用事業報告書を概要版としてまとめた資料であり、より詳細な内容については、全体版を御覧ください。

◎ 女性の主観的健康寿命について

1 はじめに

滋賀県の女性の平均寿命は、「令和2年都道府県別生命表の概況」(令和4年12月23日厚生労働省発表)において88.26年(全国2位)であり、非常に高い水準にある。

しかしながら、主観的健康寿命は、令和元年のデータで76.59年(全国24位)となっており、決して良い数字とは言えない状況にある。

また、同年の「自分が健康であると自覚していない期間の平均(不健康期間)」は11.45年(全国41位)であり、「日常生活に制限のない期間の平均」の指標値は74.44年(全国46位)である。(男性は73.46年で全国4位)

この平均寿命と健康寿命(指標値)の乖離については、政府の健康日本21においても言及されているところであるが、このギャップの要因の可能性や意味を見出すことも含めて統計的な解析と考察を試みた。

2 結果と考察

(1)「主観的健康寿命データ(経年変化)」および「不健康期間の平均と平均寿命の平均との相関関係」から、以下のことが伺えた。

- ・全国的な傾向として、主観的健康寿命は延長傾向、不健康期間は短縮傾向にある。
- ・滋賀県の女性の主観的健康寿命、不健康期間の実年数およびその割合は、相対的に良い数字とは言いがたい。
- ・滋賀県の女性のデータでは、「平均寿命が長いと不健康期間も長くなる」という傾向を示す。
- ・平均寿命と不健康期間との間には、中程度の正相関性がみられた。(単純相関解析)

(主観的健康寿命の経年変化)

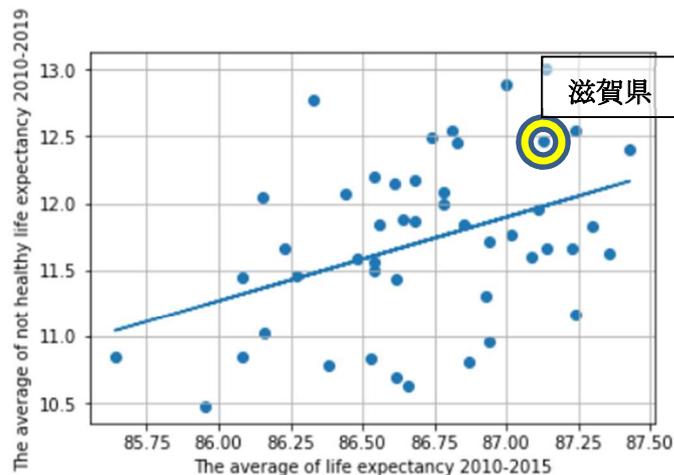
	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年	平均
滋賀県女性	73.03年	74.76年	75.77年	76.59年	75.04年
全国順位	35位	28位	23位	24位	27位

(主観的不健康期間の経年変化)

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年	平均
滋賀県女性	13.72年	12.57年	12.14年	11.45年	12.47年
全国順位	40位	40位	42位	41位	41位

(平成22年および平成27年の平均寿命(0歳平均余命)の平均)

滋賀県女性	87.13年
全国順位	9位



```
#決定係数 (寄与率)
print('決定係数: ', reg.score(X,Y))
```

決定係数: 0.15959758685402892

女性:都道府県別の「平均寿命(0歳平均余命)」の平均(平成22年・27年)と、「自分が健康であると自覚していない期間の平均」(不健康期間)の平均(平成22年・25年・28年・令和元年)の Correlation graph(Scatter plot) (相関係数0.399)

(2) 平均寿命と主観的健康寿命の関係性について、客観的健康寿命についての報告を引用し考察した。

- ・平均寿命と客観的健康寿命の差が大きくなる傾向や要因として、「平均寿命が長い」ことがその要素の1つとなり得る。

- ・日本の平均寿命、客観的健康寿命はともに世界一で、平均寿命と客観的健康寿命の差について日本と世界の数字を比較すると、実年数として9.3年(131か国中60位)、差を割合で示すと11.1%(131か国中3位)であり、先進国では最小である。

また日本の「肥満率」の小ささが平均寿命と客観的健康寿命の差を小さくする要因として大きい。

- ・「平均寿命の延伸」と「不健康期間の伸長」に、一定の相関性が存在することは想定される。

- ・現行指標としての主観的健康寿命が、個別の施策効果を反映する感度に優れているとは言えず、評価指標として運用することは適切と言い難いものの、国民・県民の「健康」や「寿命」を総合的に反映する指標であるならば、その数字の絶対値が大であることは重要である。

- ・行政機関は、個人の健康感・ニーズが多様化・複雑化する社会に対して、どのような施策でアプローチすべきか、継続的にその変化への対応力を求められる中で、いかに社会へ「健康」を還元していくのが重要である。